



ふるさとを
語ろう!

平成28年度 第2回

福島 ふるさと交流会in秋葉原

主催は、福島県被災者同行会（以下、同行会）と事務局である公益財団法人さわやか福祉財団です。なお、同行会は今年度をもって解散となるため、今回が最後の交流会となりました。

当日は、同行会会員19名の参加があり、同行会世話人代表の矢内寿氏より「6年間の歩みを振り返ることで、皆さんの明日に少しでも残せるような会にしたい」という挨拶をもって交流会がスタート!福島県と東京都の職員からの情報提供に続き、これまで発行（通算58回発行）してきた「同行会ニュース」より、同行会の活動を皆で振り返りました。その中では、発足した平成23年度は、避難者同士で連絡を取る手段が少なかったこともあり、今より交流会が盛んに行われていたこと、専門家による相談や生活に密着した情報提供など、避難者の方が不安な時期に同行会が重要な役割を果たしてきたことが紹介されました。

次に、これまでの同行会事務局担当者からひと言をいただきました。発足時には同行会の周知活動や避難者と避難者、避難者と支援者を繋いでいく難しさ。そして、同行会の自主運営の為の世話人会が立ち上がる時期には、物質的な支援から心やコミュニティの支援へと変わっていった経緯が語られました。

そして、第2部の交流会では、避難者だけではなく、福島県と東京都の職員、事務局担当者に加え、交流会発足の時から、専門家による個別相談を担当として協力して頂いた団体の「災害復興まちづくり支援機構」の船山代表と安藤事務局長の参加もあり、終始、和気あいあいとした雰囲気のまま閉会となりました。

